

経営協議会議事録  
(令和4年度第3回)

令和4年9月21日(水)  
13時00分から15時20分まで  
法人本部3階 第一会議室

出席者

議長 玉手英利  
委員 相澤益男 伊藤真知子 里村正治 西海和久 長谷川真理子  
飯塚博 出口毅 矢作清 根本建二 花輪公雄 瀧瀬晃 佐藤慎哉

列席者

副学長 林田光祐 大森桂 羽鳥政男  
監事 渡辺均

欠席者

委員 小林裕明 鈴木道子 萩原なつ子 吉村美栄子

- 1 経営協議会議事録(6月27日開催)の確認  
玉手学長から、本会議事録(6月27日開催)について確認があり、議事録が了承された。
- 2 【協議】国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書(令和4年度)等について  
花輪理事から、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書(令和4年度)の内容について、審議願うものである旨説明があった。  
次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

本件に関して、主な意見は次のとおり。

- ・山形大学としてアクティブラーニングをどのように研究・教育の部門に入れていくのか。アクティブラーニングに積極的に取り組んでいることが伝わるよう、広報戦略も拡充してはどうか。
- ・ルーブリックの項目については毎年見直してほしい。
- ・小白川以外のキャンパスでは、キャンパス長が学部長を兼任している。ガバナンスが効いていないのではないか。兼任はやむを得ないとしても、経過措置だという認識を持つべきである。

- 3 【協議】山形大学におけるサイバーセキュリティ対策等基本計画について  
矢作理事から、サイバーセキュリティ対策等の更なる強化のためサイバーセキュリティ対策等基本計画を策定することについて、審議願うものである旨説明があった。  
次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

本件に関して、主な意見は次のとおり。

- ・セキュリティが破られないという保証は一切ないという危機感を持ってほしい。日頃から、学内担当者や業者と、おかしい点があればすぐ報告するという意識を共有してほしい。

- 4 【協議】国立大学法人山形大学職員の育児休業等に関する規程等の一部改正等について  
羽鳥副学長から、職員の育児休業等に関する規程等の一部改正及び細則の制定について、審議願うものである旨説明があった。  
次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

本件に関して、主な意見は次のとおり。

- ・柔軟な対応をすと言いながら、育児休業取得回数を2回に制限しては、職員に大学側の気持ち

が十分に伝わらないのではないかと。国の制度そのままではなく、山形大学においてどうしていくべきかを検討すべきである。

- ・日本全体を見ると、制度はかなり拡充されてきたが、実際の育休取得は進まない。まずは、育児休業を取得しやすい環境作りをしてほしい。

- 5 【協議】国立大学法人山形大学役員給与規程及び職員給与規程の方針について  
羽鳥副学長から、役員給与規程及び職員給与規程の改正の方針について、審議願うものである旨説明があった。  
次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

- 6 【報告】第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について  
花輪理事から、議題に関して、報告があった。

本件について、主な意見は次のとおり。

- ・教育研究という本質的なところで山形大学はどこに優位性を持つかを全学で考え、リソースを重点的に配分すべきである。
- ・意欲的な評価指標の設定と、山形大学が最重点で推進する 이슈がバラバラではないか。
- ・この目標設定によって何が生まれるのかということを中心に大きく膨らませた全体像を見せていくべき。研究戦略・教育改革・事務組織改革の3本柱で山形大学として大きな改革構想があるということを打ち出して、そのなかにこの評価指標を位置づけてはどうか。

- 7 【報告】山形大学研究戦略（YU Research 2030）について  
飯塚理事から、議題に関して、報告があった。

本件に関して、主な意見は次のとおり。

- ・教育と研究は動かせない基本的な柱。教育改革を研究戦略と同等に並べ、パラレルに進んでいかないといけない。研究力強化という目標設定ではなく、「これこそ山形大学」というものを実現するためのアトラクティブなものでないと戦略目標にならない。
- ・学長自ら企業のニーズをマーケティングしてはどうか。トップ同士で率直に意見交換すると何かに繋がることもあるのではないかと。計画に基づいて、それぞれが行動することが重要である。
- ・最終的な目標は、研究力強化ではなく、読んだ教職員が「山大が変わる。頑張るぞ。」と思えるようモチベーションアップすることである。
- ・戦略の終了時が2050年では遠すぎる。終了時期について検討すべきである。
- ・研究基盤の強化整備の最終目的は、研究者が研究に向き合う時間をいかに確保するか。そのためマネジメントが重要である。

- 8 【報告】令和5年度概算要求について  
玉手学長から、議題について、資料の閲覧による報告とする旨説明があった。

- 9 【報告】国立大学法人及び大学共同利用機関法人の信用を失墜する行為があった場合の国立大学法人運営費交付金の取扱いについて  
玉手学長から、議題について、資料の閲覧による報告とする旨説明があった。

- 10 【報告】公益通報者保護法の改正に伴う学内規則の改正について  
玉手学長から、議題について、資料の閲覧による報告とする旨説明があった。

今回は、令和4年11月28日（月）に開催することとなった。